

平成 29 年度【社会福祉法人泉学園】事業報告

新たな法人制度改革に基づく役員体制が皆様のご協力を頂き順調にスタートを切ることができた。理事会、評議員会、監事それぞれがその役割と責任の下に、その運営と業務の執行に当たって頂いた、活発なご意見ご提案も頂いてきた。平成 30 年度は私ども泉学園の 5 年計画の見直しの時期に来ている。役員の方々に頂いたご議論を踏まえ、今後の福祉を展望した、且つ、この 30 年近い歩みの中で時代のニーズに添うよう努めてきた泉学園らしい事業計画作りを進めると共に、経営的な見直し立てを図っていただけたらと思う。

平成 29 年度は障害分野にあっては就労支援事業所の経営問題がニュースとしてクローズアップされた。企業等による福祉事業が広く展開される時代となり、利益優先の福祉サービス運営も多くみられるようになった。福祉に契約制度が導入される以前は主に社会福祉法人が担ってきた障害者福祉である。経営理念が入ってきた今の時代において、福祉の社会的使命を担ってきた社会福祉法人がどう事業運営を図っていったらいいのかじっくり考えてみなければならない。

社会福祉法人泉学園がスタートして 28 年経ち、当初から利用されてきた方やそのご家族に高齢化や介護力の脆弱さが徐々に浮かんで見える一年でもあった。ご本人を支えてこられた親御さんがお亡くなりになった家庭も多く、中にはご両親が相次いでお亡くなりになった利用者もおられた。利用者自身が他界されるということもあった。年齢を重ね、介護保険への移行問題が日常となり、環境の見直し、作業や活動内容の見直し等も課題となってきた。今後、ますますそうした年齢層やご家族の状況が増えていくものと推測される。実情を押さえた将来計画が求められているように感じる。

あらたな宿泊支援付きのグループホームや併設の短期入所事業が本格的に始まり、他方、岡山市委託事業である地域生活支援拠点の事業も南相談が主となってスタートしたこの一年でもあった。

I. 当年度法人運営の重点に沿っての振り返り

① 法人制度改革に沿った体制の整備

年度をまたがった体制整備の中で、法人理事 6 名、評議員 9 名、監事 2 名、評議員会選任委員会 3 名とそれぞれ役員や業務体制が発足し、制度改革初年度の法人運営がスムーズにスタートできた。新たな役員体制の中で活発な議論を頂き、特に評議員会では、従来同様、法人各事業への新鮮なご意見、建設的なご批判も頂いた。今年度はやはり経営面に关わるご意見をしっかりと頂いたように思われる。当面の大きな課題としてある。新年度に向けても理事会と評議員会、監事の皆様がそれぞれの立場から将来見通しが立つことにむけた活発な議論を頂けたらと考える。

② 魅力ある福祉事業の創出

当法人のグループホーム定員は 59 名に及ぶものとなった。地域生活を支える制度としてますますそのニーズが高くなっていることを実感した年であった。県下でも有数な多くの方を支援する GH 事業となっている。短期入所も本体施設である泉の園の事業に次いでグループホームで始めることができた。ニーズの高さを伺わせる現状である。上記したように、後期からは岡山市の委託事業である地域生活支援拠点の事業を南相談が主となって進めている。発達障害や重症の児童の福祉サービスへの取り組みはまだ検討に至っていない。他のニーズと併せて受けとめ、新たな 5 年計画の中で検討していけたらと考える。

③ 当法人の今、将来を支える人材の確保

昨年 9 月 30 日と 11 月 7 日、12 月 5 日の 3 回職員採用試験を実施、新規の応募者は 11 名、新卒者は 6 名に止まり、新年度に至っても男性支援者の求人を出している状況である。泉学園、福祉職場に限らず人口減少の中で人材不足は社会現象となっている。どうスタッフを確保していくか悩ましい現状であるが、一層リクルート活動を活発にすること、採用試験の時期を早めること等いろいろ検討しているところである。昨今は勤務管理の問題も出てきている。スキルの醸成を始め、魅力ある職場づくりに向け、現状にある問題点など見直しし、議論をしていかなければならない。又、サービス管理責任者研修の受講や社会福祉士実習指導者講習等、将来の人材確保や人材育成を視野に、現任職員の計画的な押し出しを図ってきている。

④ 事業の経営基盤の強化

法人全体では積立財源の減少など厳しい年度であった。特に収支状況が厳しいデイセンターなずなやグループホームを始め、各事業がその改善に向けた対策に努めてきた。新たな加算条件を整え申請したり、事業分けをし、報酬単価のアップを図ったりの努力を行っている。従来は比較的安定した運営であった事業も次第に経営的に難しい状況も生まれている。新たな5か年計画の中で経営面での見通し立てが必要と考える。

II. 具体的な事業の実施

グループホーム併設短期入所事業、地域生活支援拠点事業の実施

平成28年度開設したGH『つぼみ』と『こかげ』に併設する短期入所事業が当年度秋本格実施した。男女各1部屋での運営であるが希望が多くほぼ埋まっているような状況となっている。

また、当年度後期にスタートした岡山市よりの委託事業『地域生活支援拠点事業』も体制を整え、必要な支援を行ってきている。

事業所の改廃

- ・デイセンターなずな瀬戸の開始

平成25年、玉柏に新たななずな開設以来、同一管理の『デイセンターなずな』として運営してきたが、平成30年1月1日より、瀬戸事業所を単独の事業所として申請、定員20名の『デイセンターなずな瀬戸』としてスタート。玉柏の方は従来通り『デイセンターなずな』として運営（定員25名）

- ・桑野フレンドリーハウス日中一時支援の事業所を廃止

利用者が少ないこと、事業実施の要件の確保が難しいこと等で平成30年1月31日付で廃止

法人研修の実施

- ・基礎研修（2年～3年） 7月26日 各事業所の魅力について発表の場を持つ
- ・中堅職員研修（7年目以上） 9月20日 各事業所5年後ビジョンについて
- ・同上 9月27日 同上
- ・フォローアップ研修（本年度採用職員）
10月21日 意思決定支援について、新任職員研修レポートを振り返ってグループ討議
- ・中堅職員研修（4年～7年） 11月22日 11月29日各事業所課題に基づく実践報告
- ・役職者研修 1月20日 発達障害者の支援について（旭川荘若草学園管理者新谷氏）
- ・平成30年度新採用職員研修 3月24日 法人沿革、就業規則、人権関連講義、ハンセン病ドキュメンタリー鑑賞等

※法人内事業所現任研修を実施（8月～3月）、8名の方が参加、日頃の配属事業所以外での現場研修

各種委員会活動

今年度も各委員会が各事業所横断的なメンバー構成の中でそれぞれ定例的な会議を持ちながら具体的な取り組みを進めてきた。

- ・研修委員会 ～ 年間の研修計画に沿って上記のとおり実施
- ・尊厳と権利推進委員会～以前作製した泉学園私の誓いを下に、主に利用者支援に関する項目について全職員にアンケートを実施。委員会の中で議論し、職員には回覧に付した。
- ・地域交流委員会～各事業所独自の地域交流の推進、ボランティアの開拓に向けてポスターの作製配布を始めとした取り組みの実施。
- ・福利厚生委員会～この期も年4回企画し、懇親会やボウリング大会、文化交流、レクレーション大会をそれぞれ実施、30人前後の参加を得て親睦の場となっている。
- ・『泉だより』編集委員会～昨年9月1日に34号、今年3月1日に35号それぞれ泉だよりを発行した。
- ・バザー委員会～各事業所のバザー調整、情報交換、バザー勤務の検討等
- ・リクルート活動WG（事務局付け）～今年度も県社協主催の就職フェアへの参加、学校へのアプローチ、マイナビの活用、職場説明会の開催などを実施

待遇改善の実施

平成29年度は、当初は従来の加算Ⅰ→今年度の加算Ⅱ（※当年度はより加算率の高い新たな加算Ⅰが設

けられ加算Ⅱとなる)を申請し実施してきたが、実施の見通しが立つということでこの11月からは新加算Ⅰを申請した。待遇面への反映としては、平成28年度から対象経費とした定期昇給額加算や月々給与に上乗せする特別給与加算、役職者や有資格者への資格等加算、夜勤手当に上乗せする夜勤手当加算を今年度も実施してきた。また、当法人としては制度が予定している処遇改善対象職種に限定せず、週20時間以上の勤務者全ての職員にも該当職種に準じた待遇改善を図ってきたところである。あわせて加算支給条件となっているキャリアパス要件、研修や環境要件も整え加算条件を満たすよう図ってきた。

地域公益的な活動の推進

法人制度改革の中で義務付けられた活動として今年度から入ってきた。従来からのパンフルートが実施している福祉有償運送事業、デイセンターなずなや瀬戸相談が地域の団体と取り組んでいる瀬戸繋がり隊の活動、といったもので今年度も推移した。新年度には、泉学園と手をつなぐ育成会、岡山ふれあい公社共催の共生岡山南ふれあいフェスタなどを予定している。

補助金による車両の整備等

泉の園～共同募金による5人乗り車椅子対応車両整備、総額2,437,664円(内助成金額700,000円)

主な改修、備品整備等

泉の園～居住棟界壁修繕工事 5,292,000円(松野建設)

桑野通所事業所～パソコンリース契約12台1,706,400円(Gateシステムズ)

パンフルート車両リース契約 1,830,000円/台(2台、トヨタレンタリース岡山)

III. 今年度法人役員会等

理事会

平成29年6月2日・・・平成28年度法人、各事業所事業報告(案)、決算報告(案)、諸規程の変更、岡山市指導監査の報告、就業規則の変更、理事監事候補の推薦、定時評議委員会の日時・議案等

平成29年6月19日・・・理事・監事の改選、理事長の選定等

平成29年11月16日・・・平成28年度法人、各事業所上半期事業現況報告、補正予算(案)、諸規程の変更、育児・介護休業等規則の変更、第2回評議員会の日時・議案等

平成30年3月20日・・・職務執行状況の報告、平成29年度補正予算(案)、平成30年度法人、各事業所事業計画(案)、当初予算(案)、諸規程の変更、第3回評議員会の日時・議案等

評議員会

平成29年6月19日・・・平成28年度法人及び各事業所事業報告並びに決算報告(案)、役員報酬等の額及び役員等報酬規程について、理事・監事の選任等

平成29年11月27日・・・平成29年度法人、各事業所上半期現況報告、補正予算(案)

平成30年3月28日・・・平成29年度補正予算(案)、平成30年度法人、各事業所事業計画、当初予算(案)

IV. その他

平成29年8月2日 桑野フレンドリーハウス岡山市実地指導

・・・定員超過している利用状況への改善努力を指摘、その他特段の指導事項なし

平成 29 年度【泉の園】事業報告

はじめに

平成 29 年度は 7 月に泉の園開設時から利用して下さっていた 77 歳の男性利用者の方が病気のためお亡くなりになるというとても悲しい出来事があった。余命宣告等の後施設でどこまでのことができるのかいろいろと悩み模索したが、今できる精一杯のことをしようと話し合った。最後は 7/9 に入院され 7/14 にお亡くなりになったが、これまで私達にたくさん思い出を作ってください、多くのことを学ばせていただいた。本当に感謝している。

泉の園の入所利用者の平均年齢は 45.8 歳(3/31 現在)だが、70 歳代の方が 1 名、60 歳代の方が 2 名、50 歳代の方が 5 名おられる。全体的にはお元気な方が多いが、心身の状況の変化により介護度が増したり、加齢に伴い転びやすくなっている方や刻み食等食事形態に配慮の必要な方も増えている。限られた職員数の中で個別の対応を行っていることの難しさはあるが、健康面、安全面への配慮の徹底と、介護力のスキルアップを図り、高齢化、重度化に対応していきたい。また 2 月にインフルエンザ B 型が集団発生した。インフルエンザが流行する時期には日々消毒等を行っているが、今回の状況を踏まえて感染予防対策の見直しを図っていく必要があると思われた。その他活動や行事等については事業計画に沿って大きな変わりなく取り組むことができた。

1 利用者状況

障害支援区分	6-35名	5-18名	4-5名	平均障害支援区分5.5
在籍数	生活介護-58名(年度当初は60名であったが、男性女性各1名減) 施設入所支援-46名(年度当初は47名であったが、男性1名減)			
平均利用率	生活介護-100.9%	施設入所支援-96.3%	短期入所-22.0%	
平均年齢	生活介護-42.2歳(通所者-28.3歳) 施設入所支援-45.8歳			

2 支援活動(グループ活動)

シリウス① (12名)	(ウォーキング、ストレッチ、散策、ドライブ、ミュージックタイム等) ・ストレッチは器具の種類を増やし、個々に合わせたメニューを取り入れて機能低下防止に努めた。 ・ミュージックタイムは火曜日に音楽療法の講師の方に来ていただき実施した。表情良く楽しんで参加される方が多かった。 ・プレミアムフライデー(自動販売機利用)を6月、1月に行った。
シリウス② (10名)	(ウォーキング、ストレッチ、散策、空き缶回収、ドライブ、ミュージックタイム等) ・活動内容をわかりやすくし、個々の様子やペース等に応じて散策やドライブ等の活動を行った。 ・プレミアムフライデー(自動販売機利用)を7月、3月に行った。
アリエス (14名)	(刺子、プレートビーズ、キャップやボールペンのマッチング、パズル、箱折等) ・複数の題材の中から各自がしたい題材を選び取り組んでもらった。またレクリエーション的な活動も取り入れていった。 ・プレミアムフライデー(自動販売機利用)を4月、10月に行った。
コンパス (12名)	(空き缶回収、空き缶プレス、資源回収、ミュージックタイム等) ・地域に出掛けて行き空き缶回収等の活動を行った。資源回収にも力を入れて取り組んだ。 ・夏場、冬場は気温の状況に応じて室内活動に変更する等の配慮を行った。 ・プレミアムフライデー(自動販売機利用)を9月、3月に行った。
オリオン (10名)	(園庭花壇の整備、野菜作り、ホール掃除、散策、サンプルブック仕分け等) ・野菜作りは野菜の成長を観察し、収穫、販売まで行った。室内作業ではサンプルブ

ック仕分け等を行った。意欲的に活動に取り組まれていた。

・プレミアムフライデー(自動販売機利用)を5月、12月に行った。

※今年度よりグループ毎に順番で月1回金曜日に外出する「プレミアムフライデー」を始めている。外出するグループは外出先で自動販売機利用を行い、楽しみながら公共の場でのマナー等を、在園グループはDVD等を用いて防災や人権に関すること等を学習している。

3 自治会活動

代議員会 木曜日(15:30~16:00)一行事の計画や立案、掲示物作成等を行った。

ホームルーム 月曜日午前一代議員が皆の意見を聞き、行事についての連絡、代議員会の報告等を行った。

行事 誕生会(毎月第4水曜日)を企画し実施した。その他おやつ作り(6月)、花火大会(7月)、団子作り(9月)、泉まつりジュース販売(10月)、焼き芋大会(11月)、おしるこ作り(1月)、豆まき(2月)、自治会総会(3月)等の行事を行った。

当番活動 ペットボトルキャップの回収・納品を行った。

人材育成 代議員会等を通じて利用者の代表意識が育った。

アンケート 利用者アンケート～暮らしの満足度～を行った(10月)。

4 余暇・文化活動

活動予定作成 月計画・週計画・土・日・祝祭日及び長期特別活動時の余暇計画を作成した。

買い物 日曜日一園周辺の徒歩外出、自動車外出(天満屋ハピータウン、イトウゴフク、エディオン岡南店、フタバ図書等)を行った。

クラブ 金曜日午後一お茶、絵画、運動等の活動を行った。

行事 花見・母の日の手紙(4月)、端午の節句・カラオケ大会(5月)、父の日の手紙(6月)、七夕・水遊び(7月)、納涼行事・DVD上映会(8月)、岡山市長選挙・ゆうあい文化祭・衆議院議員選挙(10月)、ボウリング招待・ハロウィンパーティー(11月)、浦安小学校作品展・餅つき大会・年賀状作り(12月)、書き初め・とんど焼き(1月)、バレンタイン(2月)、ひな祭り・ホワイトデー(3月)
※その他カレンダー作り、壁面飾り作成等を行った。

ビューティータイム 女性利用者を対象として、身だしなみ・ネイルケアを月1回実施した。

5 生活支援

基本的生活習慣の支援 一 障害特性、加齢等の状況を考慮し、利用者の個別支援指針を作成して職員間の共通認識とした。

生活班講座 一 利用者を対象に睡眠(5月)、夏バテ対策・熱中症予防(7月)、食事マナー・風邪予防(11月)、整理・整頓(2月)の学習会を行った。

リラクゼーションタイム 一 ADLの向上や楽しみながら体を動かすことを目的とし、背中や腕を伸ばすストレッチやヨガのポーズを取り入れたストレッチ、ボールを使用したマッサージ等を月1回実施した。

6 保健・看護

通院件数 一 987件(昨年869件)、訪問歯科件数-300件(266件)

入院日数 一 利用者3名134日(昨年利用者2名125日)

健康診断 一 年2回(8月、3月)実施、がん検診受診(39名)、検便一年2回実施
インフルエンザワクチン接種-11月(55名)

7 給食委員会

年4回、給食委託業者の栄養士も交えて献立の内容等を検討した。

食事は普通食に加え、刻み食(一口大・荒刻み・極刻み)、ソフト食(ペースト)、アレルギー対応食等の個別対応を行った(個別対応が必要な方が年々増えている)。

リクエストメニューは6月、10月、2月に実施した。

栄養健康状態の維持、向上を図ることを目的に栄養マネジメントを継続し、個々に栄養ケア計画を作成して栄養に関するケアとマネジメントを行った。－高リスク4名、中リスク16名、低リスク26名。

8 防災委員会

避難訓練－5月、6月、7月、9月、11月(2回)、3月に実施した(夜間・夜間想定、風水害、地震・津波の訓練含む)。内1回は岡山南消防署と合同で訓練を行った(11月22日)。

救急法学習会－心肺蘇生法の学習会を行った(1月26日、職員20名参加)。

9 人権擁護委員会

職員に虐待防止チェックリスト等を使ったアンケートを年5回実施し、人権擁護(虐待防止)に対する意識の向上を図った。また実習生にもアンケートを行い、外部からの視点で意見をもらうことで職員の気づきに繋げていった。

人権擁護(虐待防止)に関し、全職種の職員が参加する学習会を6月と1月に実施した。

10 行事

障害者スポーツ大会、浦安ふれあい夏祭り、泉まつり、レクリエーションフェスティバル、クリスマス忘年会、お飾りづくり、社会体験旅行

11 施設実習

県下大学・短大・専門学校より19名(昨年19名)、年間76日(昨年79日)の受け入れを行った。

12 短期入所及び日中一時支援

短期入所－延べ利用者数180名(昨年232名)、日中一時支援－延べ利用者数244名(昨年217名)

短期入所は併設型の定員を1名から2名に変更した(平成30年1月1日～)。そのため入所者用の居室を1室短期入所用居室に変更した。また短期入所利用者の男女比等の関係から既存の短期入所用居室の場所を変更し、新たなしきり戸を設置した。

13 ボランティア受け入れ

行事を中心に約45名(昨年50名)、その他ギターコンサート、和楽器演奏会、ハンドベルアンサンブル演奏会、余暇支援等のボランティアに来てくださった。

14 多目的ホールの貸出

泉の園家族会(4月、5月、7月、9月、10月、12月)、親子クラブ(10月、1月)

15 苦情解決

ヒヤリハット 投薬関係－10件(昨年2件)、離園及び利用者所在確認ミス－11件(昨年19件)、転倒－18件(昨年6件)、利用者間のトラブル及び粗暴行為－13件(昨年9件)、その他－16件

事故 服薬ミス－34件(昨年18件)、利用者間のトラブル－11件(昨年14件)、転倒－17件(昨年11件)、離園行動－8件(昨年7件)、事故怪我による緊急通院－8件(昨年6件)、その他－28件

苦情 2件(昨年1件)－移動を拒み寝転んでしまった利用者の身体を起こそうとベルトを持って腰を持ち上げたところ負荷がかかりベルトの金具を破損させてしまったこと等(支援のあり方)に

ついて(ご家族より)。

・ケガ(低温火傷)の処置を施設内で行い通院をしておらず、ご家族への連絡も遅かった。また原因の特定も不十分であったことについて(ご家族より)。

16 施設内研修

協力歯科医療機関による学習会ー口腔ケアについての学習会を行った(10月27日、職員13名参加)。

嘱託医による学習会ー「発達障害の特性理解と支援」についての学習会を行った(1月12日、職員12名参加)。

※その他経験年数、職責等の対象別に実施された法人内研修に参加している。

17 施設外研修

- | | |
|-----|---|
| 4 月 | 中国地区知的障害関係施設長会議 |
| 6 月 | 定期総会及び社会保険委員研修会／ストレスチェック実施者養成研修／備前圏域施設長会
安全運転管理者講習／福祉人材確保支援セミナー |
| 7 月 | 岡山県相談支援従事者初任者研修／県福祉協会サマーセミナー
楽しく学べる防災講座／中国四国地区知的障害関係職員研究協議会 |
| 8 月 | 社会福祉法人新会計基準セミナー／岡山県相談支援従事者初任者研修
岡山県経営協セミナー／65歳超雇用推進助成金説明会 |
| 9 月 | 福祉施設におけるキャリアパス・人材育成研修／働き方改革推進セミナー
岡山県相談支援従事者初任者研修／全国知的障害福祉関係職員研究大会 |
| 10月 | リスクマネジメント研修会／腰痛予防対策研修会／公正採用選考人権啓発推進員研修会 |
| 11月 | 精神・発達障害者しごとサポーター養成講座／中国地区知的障害者支援施設部会研修会
技能実習指導員講習会／年金委員・健康保険委員研修 |
| 12月 | 社会福祉法人の運営実務セミナー／手をつなぐ育成会岡山県大会
福祉施設のためのリスクマネジメント研修／岡山県経営協セミナー
サービス管理責任者現任研修会／看護職の人材確保推進のための研修会
人権リスクマネジメント委員会合同研修／施設長会議 |
| 1 月 | 障害者支援施設部会全国大会／労使トラブル対策伝授セミナー
岡山県知的障害者福祉協会職員研修会／喀痰吸引等指導者フォローアップ研修 |
| 2 月 | 強度行動障害連絡会議／アメニティフォーラム／岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修 |
| 3 月 | サビ管・相談支援専門員合同意見交換会／集団指導 |

18 施設等整備

共同募金の配分をいただき、車いす対応5人乗り車両(TOYOTAーシエンタ)を購入した。通院や外出、日々の活動にとっても役立っている。防犯、防災対策として警備会社と契約し機械警備システムを導入した。また玄関に防犯カメラ及び人感センサーを設置した。

過去の水漏れにより男性居室棟の床下の立上り部分が崩れてきており、界壁修繕工事を行った。

相談室の照明器具LED化工事を行った(平成27年度より使用頻度の多い場所から順次照明器具のLED化を進めている)。

平成 29 年度【ネイチャーファーム】事業報告

はじめに

平成 29 年度は就労継続支援 A 型に対する指定基準の改正に伴い、運営の見直しを始めとする変化の多い一年であった。長年にわたり取り組んできた苗花、製パンのオリジナル商品による収益活動が将来を見据えた連動性のある活動となるよう常に商品と向き合い、問題意識を持って活動していく大切さを実感している。また日々ひたむきに汗を流し笑顔で働く利用者職員の姿に、改めて継続して行くことの大切さ、働くことの意味を実感する一年であった。

1. 運営について

職員配置 7.5 : 1

年度当初は管理者（サビ管兼務）1名、職業指導員3名、生活支援員1名、事務員1名、製造員等パート4名の職員体制でスタートしたが、8月に経営改善計画書を提出し、利用者に支払う賃金以外の必要経費の見直しを図り、パート職員の職種変更等を行った。また事務業務分担の見直しも行った。

各工房では収益活動による利用者への賃金支払いを行う事業所として日々の売り上げ目標や将来を見据えた取り組みを継続して行った。しかし花工房では例年にない不作の年であり悪天候による農作物、苗花の育成不良等が続き出荷・販売に大きく影響した。そのため収支状況は当初の計画を下回る結果となっている。パン工房では4月より新たな販売先も増え今年度も月平均の売り上げが400万を維持できている。また経費の見直しを行い収支状況は改善している。花工房とパン工房トータルの収支状況は前年度に比べると改善しているものの、支出超過の状況は続いている。2月には提出した経営改善計画書に対する経過ヒアリングが行われ、利用者に対する賃金支払いや契約労働時間、生産活動の現状を報告しているが、年間での改善がなされるまで引き続き計画書の提出は継続されることとなっており、指定基準を満たすことができるよう今後も努力していきたい。

2. 利用者の状況について

花工房7名（男性6名、女性1名）、パン工房14名（男性9名、女性5名（うち短時間契約者2名））。花工房では定年後の再雇用をしている利用者に対し体調を考慮した勤務や作業内容の見直しを行い、精神的に悩みの多い利用者に対しては継続した話し合いを行い、家庭や医療機関とも連携し無理のない活動を行ってもらっている。その他突発的な無断欠勤への対応や生活環境の見直し、住居移転等を支援している。パン工房では4月に女性1名が入社され、12月末に体調及び作業意欲の変化により女性1名の退職があった。利用者個々の悩みや問題を家庭や関係者とも連携し支援している。また包装中シーラーに手をはさんで指先を裂傷される事故と徒歩で帰宅中、自転車との接触事故があり労災申請している。

3. 具体的作業内容

花工房

苗、野菜の育成栽培及び販売、法人内事業所での委託販売、バザー委託販売、岡山市指定配布（年4回）、市場出荷、生産者、業者への卸、学校や地域、各種団体からの受注、イベント出展（年間約25イベント参加）、植栽の請負、学校、地域を対象とした野菜収穫体験の受け入れ、公園協会主催の寄せ植え教室用花材提供、各イベントでの配布用の苗花受注等を行った。前期の参加イベントは売り上げも伸びたが、後期のイベントについては天候不良等で客足が悪く売り上げの低迷が続いた。しかし年末のイオンバザーは好調な売り上げであった。またJAはなやか南店で販売する野菜の種類を増やした他、新たに優先調達による施設の樹木伐採や長嶋愛生園の花壇植栽等を行っている。

パン工房

製パン、製菓（焼き菓子など）の製造及び店舗での販売、バザー委託販売、業者、施設売店への卸、委託販売、イベント出店、学校や地域、各種団体からの受注、学校バザー委託販売、小学生対象のパン教室

(社協主催)、移動販売等を行った。また今年度は新たに朝日高校、山陽女子中、高校、山陽女子短期大学、岡山空港、工業科学技術センター等へ販路拡大ができた。しかしパナソニック、山陽女子短期大学等は経営方針変更により販売契約が終了した。現在は両備ストアとの営業交渉を行っている。

4. 支援内容

職業指導

花工房では報連相の徹底と作業の効率化、商品管理への意識向上や作業技術の支援等、パン工房では作業場や作業時の衛生環境、作業技術、効率向上、接客等を個々の目標に沿って支援している。また新たに制作予定表を作成し細かな作業工程を日々記入できるよう工夫したことにより、作業時間の短縮に繋げることができた。

生活支援

両工房共に個別支援計画に沿って健康や精神的ケア等、個々に重視される支援を行った。今年度は利用者を主体として作業や生活面に関する会議や話し合いも各工房で行え、自主的な行動や発言も得られている。また各利用者の生活環境に携わる家族や関係者との連携により様々なケースの問題解決をその都度行った。

福利厚生

利用者主体での会議を定期的に行い、アンケート等も取り入れ、両工房共に年2回の食事会(外食)を行った。またパン工房ではかねてより目標としていた一泊旅行を実施し、よい交流ができた。

5. 施設等整備について

花工房では冬場に排水設備の破損が見られたため修繕を行った。パン工房ではフライヤーの老朽化による部品交換、トイレタンクの故障による修繕、台下冷蔵庫の購入等を行った。

6. 勤務計画について

花工房では繁忙期、閑散期に応じ流動的に勤務を計画した。パン工房では各々の通勤手段、作業能力、技術を考慮したローテーション勤務を作成し、必要であれば勤務の変更を本人、家族の同意のもとに行った。

7. 防災関連

避難訓練を年2回実施した。

8. リスク管理

ヒヤリハット、事故報告の徹底を心掛け報告書の記入を呼びかけた。また商品へのクレーム、問い合わせにも対応した。パン工房では衛生管理の徹底により異物による苦情が減少傾向にあるが、原因や対策をしっかりと考え再発防止に繋げることができるような報告書の作成をしていきたい。

9. 保健看護

健康診断(年1回)、インフルエンザワクチン接種、ストレスチェックを実施した。

10. 苦情処理

今年度は苦情なし。

11. 家族会活動

5月の総会を含む年に7回の定例会議の他、花工房で年8回(延べ36名)、パン工房で年6回(延べ42名)作業ボランティアをしていただいた。また早朝の送迎やあたたかい声掛けなどをしていただき職員一同感謝している。

平成 29 年度【桑野通所事業所】事業報告

【桑野フレンドリーハウス(生活介護)】

はじめに

生活介護は、主に日中活動のサービス提供が中心となります。現状としては、利用される方の一人ひとりが主体的に活動に参加する事また、その思いや気持ちを尊重したサービスを提供してきました。

見逃しがちな潜在的なニーズを掘り起こし、サービスに繋げていきました。同じ活動で見通しの持てる方、新しい物を喜ばれる方、個別の思いを大切にしながら、そこから活動の充実を図ってきました。

日中活動の場は、働く事も含めて、色々な心地良い体験を繋いでいくものだと考えます。利用される方の一人ひとりが、期待を持って通所され、満足感を抱えて帰宅される事が理想です。

我々支援者は、そうした期待に応えるべく、日々サービス内容について試案・試行して新しいものを作っていく必要があります。そうした事で利用される方たちが期待して通って来る事の出来る事業所となると考えています。

また、日中活動の支援の場である当事業所のもう 1 つの役割として地域生活支援があります。地域での生活をいかに支援していくかが大きな課題でもあります。これまでに夜間支援体制付きのグループホームが 2 棟(ゆたか・ひばり)(こかげ・つぼみ)がオープンし、当事業所より多くの利用者が利用をはじめました。共同生活援助事業の定員(定員 59 人)の内、当事業所の利用者が 21 人利用されるようになりました。特に 29 年度にスタートした<こかげ・つぼみ>では、早くよりニーズが殺到しました。ご家族の高齢化に伴うニーズの緊急性と、先行して利用を始めた利用者の充実した移行成功事例がご家族の中に安心感を与えた結果と思われます。当事業所を利用されている方は障害支援区分が高い人が多い為、今回新設された夜間支援体制のあるグループホームは今後とも引き続きニーズがあります。

1. 利用者状況

定員 40 名、契約者 50 名 (昨年度 51 名) でのスタートでした。岡山市の方が 48 名、玉野市、赤磐市の方がそれぞれ 1 名ずつご利用されています。 GH 利用者は 10 名

2. 利用状況

利用者の利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	964	973	1007	995	961	959	990	961	906	881	877	995	11,469
%	110	111	114	108	109	109	113	109	108	105	110	113	109.9

支援区分

区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	計
19	17	12	2	-	-	50

平均支援区分：5.06 (昨年度 4.98) (平成 30 年 3 月 31 日現在)

平均支援区分が 5.0 以上であり、収益と効果を勘案して職員支援体制 2 : 1 を検討してみる。

平成 29 年度延利用者数 11,469 名 (昨年度 11,276 名) 【 +1.7% 】

3. 支援活動

①花(女性 12 名)

女性だけのグループ。比較的活発で出席率も高い。自らの力で動ける人を対象としたグループ構成となっています。午前中の主な活動内容としては、ビーズ細工や毛糸を使ったマスコット人形の作成を行

ないました。

②鳥(男性13名)

男性だけのグループ。午前中の主な活動としては、インテリア素材のカタログのサンプルはがしをしました。

③風(15名 / 男性8名・女性7名)

体調管理を中心とした医療面での支援を大切にしているグループです。

午前中は、主にペットボトルの再生作業を中心に行ないました。ビーズ通し等の課題に挑戦された方もいました。

看護師についてもこのグループを中心に活動参加しました。

④月(10名 / 男性5名・女性5名)

主に動きの激しい方やこだわりの強い方を中心に編成しています。

一部の方はペットボトルの再生に関わりました。

午後活動については、上記の4つのグループの垣根を取り払い、活動のメニューを週単位で決定し、その人それぞれの興味が持てるもの、参加して落ち着けるもの、笑顔がみられるもの等の判断基準で活動を提供しました。

主な内容としては、カラオケ・散策・リトミック・創作・音楽・アロマテラピー・センターの情報コーナーでの読書等でした。また、新たな取り組みとしてお化粧品やネイル・女子会・男子会等の新たなメニューの提供も行ないました。

また、創作活動での作品については、事業所内に展示をし、2階のギャラリーで期間展示を行ないました。センター内ガレリアでの事業所紹介の展示でも紹介しました。

4. 社会活動

買物 金銭の授受・公共の場のマナー等、買い物の経験をする場を活動の中で設けました。

また、一日外出で商業施設に行き一日を楽しみながら買物を楽しむ機会を設けました。

講座 お茶と踊りの講座を実施しました。ふれあいまつりでのお茶席の開催は出来ませんでした。敬老会の踊りの発表は好評でした。

お掃除ボランティア 地域のゴミ拾い等の清掃活動を地域委員会と共に実施しました。今年度は、年間7回の実績です。

5. 活動について

昨年度同様基本的に午前中はバイタルチェック後に作業、マッサージ、ストレッチ、歩行や散策を、午後からは活動中心にサービスを提供していきます。

作業については、サンプルはがし、ペットボトルのラベルはがし、手芸等を主な題材としていきます。働く事をおして社会とのつながりを実感できる機会としていきたいと考えています。

午後の活動については、音楽、カラオケ、散策、創作、講座(お茶、踊り)、プール、一日外出等を定期的に取り入れ、仲間たちが楽しめる機会を増やしていきます。

また、活動がマンネリ化しないように目新しい活動内容を創出し、提供する努力をしていきます。

今年度は各グループに分かれて一日社会体験を実施しました。

〈桑野ワークプラザ(就労継続支援B型)〉

はじめに

働くことを目的とした事業所として、少しでも多くの工賃を支払う事の出来る事業所を目指す一方で、健康や精神面等の心のケアが求められる比重が増える傾向にあります。提供するサービスの変更等、ご本人やご家族と

話し合いを持ちながら、相談支援事業所をからめて今後の方向性を検討する事が必要と思われる方も出てきています。実際に生活介護事業に異動したケースもありました。今後もこうした事案が増えてくるものと予想されます。作業や活動をとおして、一人ひとり異なった目標やニーズが果たせるよう、支援に配慮したサービスの提供をしています。

また、今年度の取り組みとして作業班および職員の所属の垣根を外す取り組みを実施する予定でしたが、十分な実施が出来ておらず、来年度の課題として残しました。利用される方にとって選択肢が拡がり生き生きと作業に参加する姿が見られる事を期待したいと思います。

1. 利用者状況について

出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ人数	400	412	440	444	436	437	430	422	407	417	416	458	5,119
%	91	94	100	97	99	99	98	96	97	99	104	104	98.0

定員 20 名、契約者 22 名（昨年度 23 名）でスタートしました。メンバー全員が岡山市管内です。

障害基礎年金 1 級受給 12 名 GH 利用者 12 名

平成 29 年度延利用者数 5, 119 名（昨年度 5, 241 名）【 -9.8% 】

2. 工賃の支給について

ワークプラザでは、少しでも前年度を上回る工賃が支給出来るようにしていきます。

平均月支給額 8,000 円の確保を最低限とし目指し設定しました。達成できました。

平成 29 年度の実績は 9,067 円でした。

3. 活動計画について

主たる屋内作業としては大和運送から封入作業、大江紙器から段ボール加工、県タオルから箸入れ、サンゲツからサンプルはがし等の下請け作業を行っていきました。

また、ふれあいセンター清掃管理業務、ふれあいセンター花壇管理業務、食品加工（クッキー製造販売）、出向作業（岡山清掃）、また、法人内での共同作業や社会就労センター（セルフ協）からの受注作業等、要請があれば積極的に受けていきました。また、四季折々の中で楽しむ事の出来る企画を利用される方の意見を反映させながら実施してきました。また、希望者は生活介護と共に講座（お茶、踊り）にも参加をしました。

〈事業所共通の取り組みについて〉

1. 年間行事について

①歳時行事 季節ごとの歳時的行事については、全て取り入れています。

また、フレンドリーハウスでは、職員の工夫や奇想天外な発想や衣装・小道具などの準備で利用者の方たちが喜ばれる場面が多くみられました。

ワークプラザについては、七夕と節分のみ行いました。

初詣については、1 日行事として各グループにて実施しました。

②一日社会体験

フレンドリーハウス ※既存の各グループで実施しました。

花：玉野マリンホテル 会食

鳥：吉備中央町 チロリン村 ジンギスカン鍋

風：総社 サンロード吉備路 会食慰労会

月：長船美しい森 バーベキュー

③クリスマス忘年会

由加山 山頭火にて全体で実施しました。

2. 土曜開所について

土曜開所日は、ボウリングやカラオケ、クッキング、レクリエーション等利用者のニーズに応じていきました。年間 19 日実施しました。最大限の開所可能日を設定しました。

3. 仲間の会(自治会活動)

代表者会議 定期的に朝礼後に集まり話し合いを持つ機会を設定しました。

グループ会議 第一の金曜日のティタイムの時間に話し合いの場を設定しましたが、グループでのまとまりがつかない場面が多く、成立していませんでした。

行 事 「たんぼぼまつり」の企画・運営を仲間たちのみで開催する事ができるように領域を中心に支援しました。他の行事については、サービスの提供の観点から利用者の方の要望を取り入れながら、職員主体で企画・運営しました。そうした中でも利用者の方が関われる場面では協力していただきました。

当番活動 食堂の掃除当番を全体としての活動としておこないました。

各グループについてもそれぞれのグループに見合った当番活動をしました。

4. 給食提供について

給食委員会を中心に以下の項目について取り組みました。

- ・個別に食べやすい調理法や食器や台等の合ったものの提供に努めました。
- ・食事量(カロリー)等、健康面に配慮したサービスの提供に努めました。
- ・嗜好調査を実施しました。利用者の方の希望を集約し、調理スタッフに伝えました。
- ・該当月の利用者に対してバースディメニューの提供をしました。
- ・テーブル拭きや手洗い等、衛生管理に努めました。

(株)魚宗(サントピア)に委託しました。調理員 3 名による 2 名/1 日 ローテーションでは、緊急の休みにも対応することが出来ました。

給食アンケートをとるなどして利用者の希望を反映したメニューや給食委員会のアンケートを基に副食の工夫等しました。併せて健康面に配慮したメニューについては、外注で取り寄せをして対応しました。

5. 健康管理について

基本的生活習慣の獲得が目標で歯磨き支援や更衣等の場面を大切にしてきましたが、生活介護に事業展開して以降、サービスを提供する、出来ないことを補完するといった流れが生まれています。

B型の訓練等給付費と比べ、生活介護は介護等給付費と表現されており、利用される方をサービスの受け手として捉えられる傾向が強まっていく方向にあると思われます。

しかし、生活支援とは自立への支援も含まれている事も念頭に入れて日々の支援に努めました。

- ①学習会の開催 歯磨き・着替え・熱中症・風邪予防・手洗い・掃除・食器洗い等について学ぶ機会を提供しました。生活介護と就労Bと別々に実施しました。
- ②健康診断 希望者のみ実施しました。
- ③口腔衛生 6月に歯科医に依頼して希望者に検診を実施しました。
- ④生活習慣病 毎月体重の管理を実施しました。
- ⑤感染症対策 ノロウイルスやインフルエンザが流感する時期には次亜塩素酸ナトリウムでの除菌や空

中散布を実施しました。特に、多くの感染者を出す事は経営にも影響してくる為、細心の注意をはらいました。

昨年度も心身共に課題を抱えられた方がみられました。健康については、ご家庭との連携の中で細かい配慮を行いました。心のケアについても常にご本人の気持ちに寄り添いながら支援していきました。怪我や事故についてはヒヤリハット等で環境要因や発生原因を共通認識し未然に防ぐよう努めました。

6. 利用者の送迎について

現在約9割の方が利用されています。安全運転に留意して事故のないように努めました。当該年度は、バスが壁面に接触した事案が1ケースのみありました。30年度については、29年度分配の共同募金の助成(100万円)を受けてキャラバン(10人乗り)の購入を計画しています。

7. 地域交流について

地域委員会を中心に取り組みました。

- ・春の桜まつりにて地域の役職の方と顔つなぎをしました。
- ・年末の百間川クリーン作戦に参加しました。
- ・近隣事業所との交流行事として、センター内の高齢者事業所で踊りの披露をしました。
- ・生活介護事業所「エスポール桑野」との交流会は見送られました。
- ・地区社協との餅つき会は参加者や社協の会員さんからも好評であり継続します。
- ・例年の敬老会では踊りを披露しました。
- ・例年どおり事業所紹介をブロムナードで行ないました。
- ・ホームページの更新を定期的におこないました。
- ・2階のギャラリーの「ちいさな美術館」に出展しました。創作活動の発表の場として、今後も継続していきます。
- ・ボランティアの参加は、ふれあいまつりを含めて少ない状況が続いています。

8. 虐待防止について

虐待防止委員会

- ・虐待について研修会を開催しました。
- ・各自にチェックシートを配布し、一週間ごとの見返しをしました。
- ・定期的にグループディスカッションをチェックシートを基に開催しました。
- ・虐待のない人権に配慮した施設作りに努めました。
- ・より良いサービスが提供出来るようにマニュアルの整備を行ないました。
- ・利用者に対して満足度調査を実施しました。

結果については、呼び捨てやあだ名について不快な思いをされている。長い間待たされたと答えられた方も依然として多く、残念な結果になりました。大きな声で注意された、勝手に予定を変更された、話しかけても無視された、と答えられた方も少なからずおられました。昨年度の調査と比較してほとんど改善されていない事が明確となりました。今後の課題として改善を図っていきます。

9. リスク管理の徹底をはかり、苦情・意見への迅速な対応に努めました。

リスク管理委員会を中心に下記の項目について取り組みました。

- ・事業運営上起こり得るリスクを最小限に抑える事について検討をしました。
- ・自然災害に対しての適切な対応について協議しました。
- ・様々なリスクについてのマニュアルの作成 / 検証 / 実践を行ないました。
- ・ヒヤリハット、事故報告書、事故発生届の提出を徹底しました。

ヒヤリハット発生件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
F	8	3	7	4	2	3	3	7	1	5	7	2	52
W	2	2	5	0	2	3	1	1	2	6	2	1	27
計	10	5	12	4	4	6	4	8	3	11	9	3	79

形態別発生件数

形態	事故	他害	所在不明	転倒	盗飲食	ミス	服薬ミス	取り違え	送迎ミス
F	9	15	5	6	3	2	3	5	1
W	3	4	5	2	1	2	0	2	0

障害の重度化や高齢化、さらには利用者を取り巻く環境や支援のあり方等が事故の背景にはありますが、職員の意識が事故のある、なしに大きく関わってきます。リスクに対しては緊張感をもった職場でありたいと思います。

また、苦情・意見は真摯に受け止め、発生した事案については「すばやく」「かくさず」「誠意をもって」対応していくと共に十分に原因を探りその防止に努めていきました。第3者委員や運営適正化委員会等にお世話になる案件はありませんでした。

10. 非常災害対策計画

地震やそれから派生する水害等に対する避難の想定及び対策を「おかやまふれあいセンター事業課」を中心に検討しました。ふれあいセンターは一次避難場所に指定されており、3日程度の食料の備蓄をしています。1階の旭川荘「くわのみどりの家」では、独自に2日分の食料備蓄をしているとの事です。事業所内においても情報を共有し、有事に対応出来る組織作りと訓練を実施していく予定でしたが、実施はできていません。『地震防災組織図』を有効に使用出来るように地域との連帯を図っていくことを課題としています。

11. 防犯対策について

不審者の侵入から利用者を守る体制作りを検討しました。

不審な人物と感じられた場合には、まず、声をかけて相手の反応をみる事で判断する事を徹底しました。リスク委員会にて継続協議し、周知を図っていきます。

12. 自己研鑽の強化と従業者の資質の向上

職員の意識改革、スキルアップの為に今年度も引き続き研修に参加していきます。また個々の目的や希望に基づいた研修についても勘案しながら前向きに参加を検討しました。

事業所内研修については、各事業所の目的や専門性に応じた内容の学習会を計画し実施しました。

特に差別解消法や虐待防止や人権に関すること、利用者の健康や救急法等についても研修の機会を設定しました。

6月8・9日	福祉職員生涯研修	6月20・21日	福祉職員生涯研修
7月13・14日	中四国地区職員研修会	9月27～29日	全国職員研修会
法人内研修	施設間研修 4名	県福祉協会	人事交流研修 2名

以上

平成 29 年度【泉学園共同生活援助事業所】事業報告

はじめに

平成 29 年 2 月にショートステイ併設の新規グループホームが開設し、合わせて既存のホームにおいても 2 月から 3 月にかけて統廃合を行った。そうした中で 4 月を迎え新たな暮らしをスタートした方も多かった。一人ひとりそれぞれのペースで生活を積み重ね一年が経過したが、毎日「行ってきます」「ただいま」が自然に飛び交う場となった。ただ今期は個別の課題やニーズを掘り下げることができず、生活が前進していかなかったケースもあった。ご本人（ご家族）の暮らしの受け皿であるべきグループホームがその使命を果たせなかったことは大きく反省させられ、来期の大きな課題となる。

短期入所については 10 月にオープンし、年明けから受入れを開始してきた。地域からの要望が大変高く、これからもできる限りそのニーズに応えていきたい。

1. ホームの状況（平成 30 年 3 月 31 日現在）

1) グループホームビーネン	定員 4 名（現員 4 名）	南区福富西
2) グループホームニュービーネン	定員 4 名（現員 4 名）	南区福富西
3) グループホームはちみつ	定員 4 名（現員 2 名）	南区福富西
4) グループホーム福富Ⅰ	定員 4 名（現員 4 名）	南区福富西
5) グループホーム泉	定員 4 名（現員 4 名）	南区福富西
6) グループホーム菜の花	定員 4 名（現員 4 名）	南区福富西
7) グループホームみのり	定員 2 名（現員 2 名）	南区福富西
8) グループホームゆたか	定員 7 名（現員 7 名）	南区豊浜
9) グループホームひばり	定員 7 名（現員 7 名）	南区豊浜
10) サテライト福富Ⅰ	定員 1 名（現員 1 名）	南区福富西
11) グループホームこかげ	定員 7 名（現員 7 名）	南区豊成
12) グループホームつぼみ	定員 7 名（現員 7 名）	南区豊成
13) グループホーム福富Ⅱ	定員 4 名（現員 4 名）	南区福富西
	定員 59 名（現員 57 名）	

消防法の改正に伴い、「グループホームゆたか」、「グループホームひばり」において自動火災報知機と通報装置の連動工事を行った。また「グループホームビーネン」、「ニュービーネン」、「はちみつ」、「菜の花」及び「グループホームみのり」においては小規模施設用自動火災報知機を設置し、法改正に伴う設備の整備は 3 月末までに完了した。

2. 利用者の状況について

今年度は体験利用を経て 1 名の方が 5 月より「グループホーム福富Ⅱ」へ入居し、3 月末日で現員数 57 名となった。6 月、同居者との人間関係により、ホーム間で入居者の異動を行った。また日中活動や職場が変更になった方もいたが、現在はそれぞれの場においてしっかりと活動できている。

医療ケア等の課題でホームでの生活が前進しなかった方、骨折や持病の悪化で入院が長期化した方等、ご本人はもとよりご家族にも心配や負担をおかけした。グループホームの支援者として力不足を感じた 1 年であった。

3 月の末にアパートの住人より苦情があり、ご本人、アパートの管理会社、大家さんより退去を求められる。新年度に入り退去を予定しているが、次の生活の場が大きな課題となり、地域で暮らすことの、また暮らしの場を見つけていくことの困難さを痛感している。

3. 職員体制について

管理者 1 名（兼務）、サービス管理責任者 4 名（兼務常勤換算 2）、世話人（専従 23 名、兼務 7 名、常勤

換算 12.3)、生活支援員（専従 4 名、兼務 12 名、常勤換算 9.2）、事務員 1 名（兼務）、看護師 1 名（パート）で支援を行ってきた。11 月 1 日よりサービス管理責任者の変更を行った。また常勤換算には影響なかったが、入院や退職等で恒常的に世話人不足が続いた。生活支援員については 6 月より 1 名が産休に入り、常勤換算は満たされており代替職員の補充は行わなかった。1 月より「グループホームこかげ」の夜間支援員を採用した。

4. 利用者支援について

- ①地域において入居者が共同して、あるいは一人で日常生活が送れるよう、食事の提供、健康管理、その他日常生活の支援を行う。
- ②入居者が地域住民として責任と誇りをもって生活できるよう支援を行う。
- ③入居者が安心、安全に暮らせるよう住宅環境を整え地域との連携を行う。合わせて災害を含めたリスクへの対応策を具体的に講じていく。
- ④支援においては、地域で暮らす一住民として入居者の意思を尊重し、自己選択、自己決定をそれぞれの生活場面で実践していく。

以上を支援目標として取り組んできた。特に利用者の人権に配慮し、しっかり耳を傾けていくことを会議等で確認したが、まだまだ不十分なことが多く、さらに研修や外部の目をいれながら見直していきたい。また災害や利用者の不適切行為等地域生活を送る中で生ずるリスクについても地域や関係機関と具体的に連携していくことが来期の課題として残る。また来期は利用者の個別の課題や思いをしっかり受け止め、「個」としての生活に焦点をあてた支援を行いたい。

5. 苦情・ヒヤリハット・事故等リスクについて

○苦情について

- ・他利用者にご飯に塩をかける等のいたづらをされた。
- ・サテライトホーム利用者が毎日のように午後から夕方くらいまで泣き叫び、とても不安でできれば退去してもらいたい。（アパート住人、管理会社、大家さんより）

○ヒヤリハットについて

施錠、施錠忘れ、療育手帳の置き忘れ、投薬準備ミス、服薬し忘れ、ホームから出ていこうとする、地域の方の自転車に乗る、動いている車のドアを開ける、転倒、工賃を違うご家庭へ渡す、職員の手が顔にあたる等 31 件（昨年度 19 件）

○事故について

地域の方の自転車に乗り、警察で取り調べを受ける、転倒、打撲、器物破損、事務所に入りデスクの中を触り警察に通報される、指をドアにはさむ、所在不明、薬のセットミス、服薬し忘れ、帰省準備物の渡し忘れ、火傷、他利用者を殴る、酒の飲み過ぎで酩酊状態になる、ホームを出てバス、電車に無賃乗車する等 28 件（昨年度 11 件）ヒヤリハット、事故共に増加傾向にある。対応策をしっかり周知すると共に職員の意識改革が必要と思われる。

6. 職員研修について

今年度は現場の職員全員が 6 月から 9 月にかけて優良事業所（四葉会 これから）において現場研修を行った。特に自閉症の方の対応については大いに参考になった。また事業所内研修においては、虐待防止、人権に関するグループ研修、事業所の今後の展望についての学習会を行った。他、法人内研修へも積極的に参加を行った。

7. 事業所運営について

今年度は世話人配置を 6 : 1 から 5 : 1 へ変更し、報酬単価を上げ運営を行ってきたが、人件費や事業費が大きく膨らむ結果となり、他の経理区分から援助を受けつつ運営を行ってきた。また定員が充足せず長ら

く空き部屋があったことや健康等の課題により利用率が低下したことなどで収入の増加につながらなかった。来期の大きな課題となる。

8. 短期入所事業

平成 29 年の 10 月「グループホームこかげ」と「グループホームつぼみ」にそれぞれ男女 1 名ずつの短期入所を開設した。動き始めたのは年明けからであったが、少しずつ利用者や利用契約者が増加している。今後もできる限り地域のニーズに応えられるよう努めていきたい。

9. 来期への課題

前でもふれたが来期は利用者「個」の生活に重点を置きたい。生活の基本はグループではなく「個」であろうと思う。来期は一人ひとり異なる「個」としての生活に視点を置き、生きがいを感じられる場面が少しでも増えるよう担当を中心に計画していきたい。

またグループホームにおいては今春の報酬改定でマイナス改定となった。来期も厳しい事業所運営が予測されるが、職員全員で知恵を出し合いながら、またグループホームやショートステイの利用率を上げる等の努力を行いながら経営改善をはかっていくことが次なる課題である。

平成 29 年度【岡山南障がい者相談支援センター】事業報告

1. (はじめに)

計画相談支援の関係では、要望に応じて積極的に呼応してきたが、全体の状況としてセルフプランでの対応にならざるを得ないことから次年度の課題として残った。一方、個別給付以外の一般的な相談に加え専門的な相談支援の実施、事業所支援や研修の機会により地域の支援力向上の一助としての取り組みも協議会を通じながら実施した。また、今年度から地域生活支援拠点事業をスタートさせ、地域ニーズの対応に向けて体制を整えることとなった。

2. (管理運営、相談支援体制の状況)

29 年度は、今後地域から見込まれる計画相談支援の対応増と地域生活支援の継続に関する取り組みを鑑みて、相談支援専門員を 4 人として体制の強化を図っている。

管理者	相談支援専門員	事務員	計
1 (兼)	4 (兼 3)	1 (兼)	5

3. (地域の支援に関する取組み)

○岡山市障害者自立支援協議会

- ・全体の運営に関する会議、地区による事例検討会・課題整理、各種専門部会やワーキンググループに参加した。

○相談支援専門員の養成および育成

- ・岡山県実施の初任者研修（講義、演習）に協力した。
- ・市主催の計画相談支援に関する研修の企画運営等に協力した。

○県立支援学校および医療機関等

- ・連携に係るネットワーク会議やケア会議に参加。

○岡山県障害者相談支援アドバイザー事業

- ・県下市町村への支援（協議会、地区体制整備支援、困難事例のケース会議等）を実施。

(職員の派遣)

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
市自立支援協議会関係	6	6	7	7	6	7	8	6	6	4	7	8
県アドバイザー事業	2		3	1	2	1	2		2		2	1
機関との会議等	2	1	1	4			3	2	4	2	5	6
各種研修会等				1	6	5			2	1	1	

4. (職員の研修)

開催月	派遣内容	主催	開催地	備考
毎月	市協議会地域部会事例検討会	市協議会	岡山市	
4月	知福協中国地区施設長会	山口県協	山口市	
5月	障害支援区分認定調査研修	岡山県	きらめきプラザ	
6月	厚生労働省相談支援従事者指導者養成研修	厚生労働省	所沢市	
6月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	旭川児童院	
7月	医療的ケア児等コーディネータ養成研修	岡山県/岡山市	旭川児童院	
7月	岡山県相談支援専門員協会研修会	県相談支援協会	川福大	

8月	相談支援従事者初任者研修	岡山県	きらめきプラザ	
8月	中国ブロック相談支援専門員協会研修会	島根県協会	出雲市	
9月	全国的知的障害関係職員研修	日本知的福祉協会	名古屋市	

(職員の研修)

開催月	派遣内容	主催	開催地	備考
9月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	旭川児童院	
10月	社会福祉士実習指導者養成研修	社会福祉士会	倉敷市	
10月	相談支援セミナー	日福協	横浜市	
10月	南区西地区精神保健連絡会	市健康づくり課	岡山市	
11月	サービス管理責任者合同研修会	市協議会南西部会	岡山市	
12月	岡山県就労系サービス市町村職員向け研修会	岡山県	岡山市	
12月	岡山県ファシリテーター養成研修	岡山県	岡山市	
12月	岡山市計画相談支援に関する研修会	岡山市	岡山市	
1月	岡山県地域移行に関する研修会	岡山県	岡山市	
1月	思春期精神保健専門研修	岡山市	岡山市	
1月	虐待防止に関する研修会	知福協/専門員協	岡山市	
1月	サービス管理責任者合同研修会	市協議会南西部会	岡山市	
1月	南区南精神保健連絡会	市健康づくり課	岡山市	
2月	精神保健福祉士実習指導者養成研修	PSW協会	倉敷市	
2月	障害児相談に関する研修会	岡山県	岡山市	
2月	市障害者自立支援協議会研修会	福祉サービス部会	岡山市	
2月	精神保健福祉連絡会	市健康づくり課	岡山市	
3月	就労について考えるセミナー	岡山市	岡山市	
3月	意思決定支援研修会	相談支援専門員協	岡山市	
3月	サービス管理責任者合同研修会	市協議会南西部会	岡山市	
3月	岡山市計画相談に関する研修会	岡山市	岡山市	

5. (次年度に向けての課題や取組みについて)

上半期においては、岡山市や自立支援協議会（地域部会）と共に障害のある方たちの地域生活支援に関して検討を続けてきた。そして、下半期からは国が設置をイメージしてきた「地域生活支援拠点」を第4期障害福祉計画に基づき具体化することになった。これを受けて泉学園として多機能型拠点を設置し、地域内（南区）での面的整備に向けて他法人さんの実施するサービスとの連携をさらに強化することとなり、このたび事業を実施することとなった。

この事業に関しては、①24時間365日の相談支援、②緊急時における対応、受入れ等、③体験の機会・場の提供、④専門的人材の養成等、⑤地域の体制づくり（連携）の5つの柱から構成されており、地域での生活を継続するための仕組みとして、日常の生活に安心を届けようとするものである。

地域ニーズは、個別支援ニーズから地区あるいは市域全体への働きかけを中心とするマクロ的な動きを要するニーズまであり、地域をあげてこれらの様々なニーズに応えられるべく連携を強化していく、またはそういった取り組みを積み重ねていくことが今後さらに求められてくる。以上のことから、市全体としての対応に関して官民協働で協議をおこないながら体制整備などに向け、地域の声を届ける等の取組みにより地域づくりに寄与していきたいと考えている。

平成 29 年度【岡山南障害者地域生活支援センター「パンフルート」】事業報告

1. はじめに

障害のある方が地域で普通に暮らしていくためには、在宅に必要な支援を受けられる事が前提にあり、日常生活を安心して過ごすには居宅介護事業所は必要不可欠であると考えます。

家事援助・身体介護・精神的負担の軽減を必要とされるケース、家族全体の支援が必要なケース、重度心身障がいと同居家族の負担が大きくなっているケース、社会参加・余暇活動の外出支援のケース等、求められる支援は多岐に渡っている。

居宅介護員（ヘルパー）は一人で在宅へ訪問し支援する職種である。利用者個々の障害特性・必要とされる支援も多様である。支援者の質・力量が問われる。常にスキルアップを図らなければならない。

2. 職員の状況について

・常勤職員 5 名(1 名 1 月より有休消化で 3 月末退職・1 名グループホーム兼務)、非常勤職員 1 名登録ヘルパー3 名(12 月 1 名退職、1 月 1 名入職)

合計 9 名体制で事業運営にあたる。(実質 1 月より 8 名にて運営にあたる)

3. 苦情、ヒヤリ・ハット、事故等について

ヒヤリ・ハット 3 件、その他 2 件、紛失 2 件あり。

(ヒヤリ・ハット)

- ・ADHD の利用者(児童)、移動支援中、川の土手で足を滑らせ尻もちをついてしまう。(怪我はなし。)
- ・移動支援の外出時、療育手帳がいつもの鞆の中に見当たらず。割引なしで交通機関利用する。帰宅時再確認すると本人が鞆の別の場所に入れていた。(確認不足)
- ・寝坊してしまい朝の送迎が遅れる。(他職員が遅れて対応する。)

(その他)

- ・朝の送迎予定を忘れていて支援漏れしてしまう。(ご家族が対応して下さい。)
- ・送迎中、スピード違反してしまう。(紛失)
- ・移動支援で外出時、昼食で支払い後、支援者のバッグ内に預かったお金(封筒)をしまうも次の買い物支払時バック内を見るも見当たらず。届け出するも見つからず。(保障対応。)
- ・利用料を預かりそのままグループホームに食事作りに行く。帰りに確認すると見当たらず。目ぼしい所を探すも見つからず紛失してしまう。(数日後、グループホームの職員が隅に落ちていたのを見つけて下さる。)

* 事故・苦情はなし。

4. 経営状況

・居宅介護事業(家事援助・身体介護・行動援護)は徐々に増加し受けられる日時は対応している。(前年より利用者数 3 名増の 32 名。援助時間 98.75 時間増)

発達障害・精神障害の方の家事援助が増加傾向にあった。行動援護の利用者も増加している。(現在 10 名) 徐々に増加はしているも、希望される時間帯が重なるケースが多く、人員不足で依頼に対して対応しきれていない状況。地域支援事業(移動支援)の依頼も多いが人員不足で十分に対応できていない状況で収益改善には至らなかった。

5. サービス利用状況について

各サービスの利用状況については以下の通りです。

(1) 居宅介護事業

(家事援助・身体介護・通院介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・行動援護)

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
32名	3,602.5時間	0件	0件

*昨年度支援時間 3,503.75時間

- ・利用者数前年 29名。
- ・新規依頼の傾向として発達障害・精神障害の家事援助・通院等介助依頼が多い。

(2)移動支援事業

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
33名	2,607時間	0件	0件

*昨年度支援時間 2,764.5時間

- ・利用者数前年 30名。
- ・33名中 17名が法人内グループホームの利用者。稼働時間は一回約 5時間。
- ・人員不足で十分に対応できていない状況。

(3)いきいきいづみサービス事業

延べ利用者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
1名	1時間	0件	0件

*昨年度支援時間 3.5時間

- ・移動支援・通院等介助等の福祉サービスへ移行し、制度外利用依頼は少ない為、いきいきの利用減少している。

(4)福祉有償運送事業

稼働契約者数	利用件数	総走行距離	苦情件数	事故件数
11名	638件	8,364 km	0件	0件

*昨年度利用件数 753件 昨年度走行距離 9,297 km 登録者数 72名

- ・稼働契約者数は前年と同数。利用内容は法人内への送迎・通院等介助時の送迎がメインである。
- ・福祉有償運送の新規依頼は毎月のようにあるが依頼時間・人員の関係で受けられない状態。

6. 今後の課題

地域で障害をもたれながら暮らし、ヘルパー支援を求められている方は多いが、ヘルパー不足は根本的な課題でニーズはあっても対応できない状況が昨年同様続いている。地域で生活される方のニーズに応えていくため、収益改善を図るためにはヘルパーの人員確保・質の向上は必須課題である。

平成29年度【障がい者デイセンターさくら】事業報告

ご本人の機能低下・母親の高齢に伴い、当事業所を退所せざるを得ないご利用者が続いた。私達のご利用者の人生に携わせて頂いていることを改めて考えさせられ、一人ひとりに充実した日中生活を送って頂くために更に努力をしなければと思った。また、職員が病いで長期休暇に入ったり退職を強いられるできごとも続いた。職員の無念さ、病いと闘うしんどさが伝わってきて一緒に涙する日もあった。そんな中で、同じ志を持って集まった職員同士助け合いながら、やり甲斐を持って生き生きと働ける、そんな魅力ある職場にしたいと強く願った一年でもあった。

《生活介護事業》

ご利用者とのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりのニーズに沿った支援を心掛けた。結果、心穏やかに笑顔で過ごされる方が多かったように思う。また活動内容では、ご本人の達成感や充実感に繋がるように創意工夫してきた。結果、意欲的に参加される方が増えた。今後も引き続きご利用者の気持ちに寄り添いながら、その方の魅力を引き出せる支援を心掛けたい。

1、定員並びに利用状況

- 定員:10名(変更なし) ○4月～3月平均利用率:105.8%
- 契約者数:15名(平成30年3月31日現在) 8月31日1名退所(施設入所)
- 障害支援区分:平均5.6(区分6→11名、区分5→3人、区分3→1人)

2、職員配置 変更なし(報酬単価算定基準に沿った人員配置2:1)

- パート職員1名 8月21日付退職(病気療養のため)
- パート職員1名 9月16日デイセンターなずなより異動

3、主な支援内容

- 個別活動(午前):ガラスペイント・パズル・作品作り・園芸・機能訓練他
毎日ご利用者一人ひとりに活動内容を選んで頂き、個のニーズに沿って支援をした。様々な活動に積極的にチャレンジする方と活動内容がパターン化してきている方がおられる。今後更に一人ひとりが新たな発見・楽しみとなるような工夫が必要である。
小さな花壇を利用した園芸は、地域美化にも繋がり好評であった。

- 集団活動(午後):クラブ活動・外出・創作・レクリエーション・おやつ作り他
季節感のある活動を取り入れた。またご利用者同士のおもいを育み、協力を意識した支援を心掛けた。毎週金曜日のクラブ活動は定着し、ご利用者の楽しみの一つになっている。創作活動では、目的を確認し意欲的に取り組めるように工夫した。そしてご家族へのプレゼント、あるいは多くの方に見て頂くことで喜びに繋がった。

《就労継続支援B型》

手芸班と軽作業班を合わせたくらふと班を作り協力体制を強化させた。また岡山マラソンへの出店等様々な取り組みにも恵まれた一年であり、収入アップにも繋がった。しかし利用者工賃は低く、工賃アップに向けて更なる工夫が必要である。また昨年立ち上げたボランティア委員会には10名のご利用者がとても楽しそうに参加しておられた。生き生きとしたご利用者の姿を見ていると、今後も生き甲斐に繋がる活動を積極的に提供しなければと思う。

1、定員並びに利用状況

- 定員：30名 ○利用率平均：108.3%
○契約者数：38名(平成29年3月31日現在)
9月30日1名退所（他法人就労継続B型利用）
1月31日1名退所（就労移行支援事業所を利用）

2、職員配置 変更なし（報酬算定基準に沿った人員配置6：1）

- 正規職員1名 8月21日～12月31日お休み（病気静養のため）
○臨時職員1名 9月1日入職
○正規職員1名 1月15日～2月25日お休み（入院・自宅療養のため）
3月31日付退職（病気療養のため）

3、主な作業内容

- スイーツ（食品加工） 収支差：+607,621円
→*収入：3,620,512円（前年度より275,358円増）
*支出：3,012,891円(原材料費1,459,948円、経費604,403円、工賃948,540円)
今年度は岡山市障害福祉課主催ブラッシュアップ事業に参加し、プロのデザイナーにパッケージをデザインして頂き、商品価値を高めることができた。そして価格変更を行ったが今のところ売り上げは順調である。また高島屋での販売にも繋がった。
- くらふと（製品加工・手芸・施設外就労） 収支差：+145,580円
→*収入：1,951,379円（前年度より135,974円増）
*支出：1,805,799円（原材料費94,593円、経費7,586円、工賃1,703,620円）
岡山マラソンでの商品販売（買い取り）、HOYAプロジェクトへの参加、刺し子布巾の大量注文があり高収入に繋がった。また週2回ではあるが、施設外就労が定着したことも収入アップに繋がっている。
- カフェつみ木 収支差：-503,709円
→*収入：8,780,211円（前年度より544,922円減）、
*支出：9,283,920円（原材料費3,521,998円、経費801,192円、工賃1,403,170円
職員人件費3,557,560円）
お弁当の大量注文を増やす等努力したが、お店の来客数が減り赤字経営となってしまった。次年度は土曜日営業を増やすことで経営を安定させたい。

4、利用者工賃

- 月平均：8,910円(前年度7,999円)。時給平均：107円（前年度93円）。但しつみ木は時給一律200円。現在毎日ほぼ静養室で寝て過ごしておられるご利用者、月に数回のみご利用の方もおられる。次年度は報酬単価が平均工賃月額に基づいて決定されることもあり、今後見直しが必要である。

《多機能型事業所さくらとして》

○地域との交流

- *郵便局・公民館・図書館・スーパー・散策等、意識的にご利用者と共に地域に出向く機会を増やし障がい者理解を広げる努力をした。
- *岡山理科大学半田山祭を始め、様々なバザーにご利用者と共に出向くことで、多くの地域住民の方々の交流を図った。
- *地域住民参加型餅つきを12月2日に実施した。福浜公民館館長・町内会長・子供会会長他、沢山の地域住民の方々に参加していただいた。
- *福浜公民館祭りに展示と焼き菓子の販売で参加した。毎年ご利用者も一緒に販売することで、地域住民の方々とのふれあいが深まりつつある。

*高齢者施設うららかとの交流会を12月20日に行なった。ボランティアサークルのメンバーを中心に参加したが、皆さん楽しそうにふれあっておられた。
*年2回地域美化活動を行った。

○ボランティアの受け入れ

*吉岡先生ギター演奏(2回) *オカリナ演奏(10人) *夏ボラ(7人) *餅つき(22人)

○全体行事

*生活介護・就労継続のご利用者同士のふれあいを意識しながら計画している。
*日帰り社会体験(6月)、クリスマス忘年会(12月)、成人を祝う会(1月)。

○土曜開所: 生活介護→11人利用、 就労継続→平均18人利用

*社会との関わりを意識した内容を取り入れている。

○健康管理: *生活介護に1名看護師を配属している。

*定期健康診断(9月)、インフルエンザ予防接種(11月)

○給食サービス: *給食会議→11月に1回のみ実施。

*今年度は嗜好調査ができなかった。

○送迎サービス: *生活介護→15人 就労継続→17人

*ご利用者・ご家族の希望に沿って時間差送迎にも対応している。

○車両事故(5件): 人身事故(1)、損傷(4)

○事故(11件): 転倒(2)、トイレを詰まらす(1)、店舗の商品破損(1)、他(7)

○ヒヤリハット(37件): 転倒(7)、送迎忘れ(7)、冷暖房切り忘れ(3)、他(20)

○意見(18件): 地域より(4)、ご家族より(10)、グループホームより(4)

平成29年度【デイセンターなずな】事業報告

昨年度は新卒の方を迎えることが出来ずにスタートした。年度当初より毎日通所されていた方が家庭事情で緊急入所となったり、入院や療養の方も思いの外の長期となっている。また、残念ながら体調を崩して亡くなられた方も1名おられた。一方、新しい利用者の方も数名お迎えすることができた。全体的な傾向としてはショートステイされる方が増え、頻度も徐々に高くなってきている。ご家族の負担軽減にも繋がっていると思われるが、生活介護事業所としては厳しい状況で、利用率も変わらず7割前後、職員数は1.7:1を維持している。年度途中であったが、1月からは玉柏と瀬戸それぞれ別の事業所として再スタートを切った。基本報酬や加算の若干の増加を見込み、プラスマイナスの部分で多少の増加がみられた。今後も推移をみると共に、安定した経営、運営に向けて努力を続ける。

瀬戸での開所から10年を超え、玉柏でも5年となった。年度末における職員の異動等も最小限で済み、今後も福祉の担い手不足の懸念は依然としてあるものの、日々の支援で終わるのでは無く、支援の内容、中身を見直し、問いかけていける職員集団を目指していきたいと思う。

また、年々自然災害の脅威は増しており、備えや対策等の研修会も多く開催されるようになってきた。知識を得、情報を入れること、なずなの現状に合わせた備えや訓練を繰り返していくことが大事と考え、可能な限りの参加と全体での学習、訓練を行っており、来年度も引き続き災害に備えていきたい。

1. 平成29年度事業の概要（年度末現在）

	玉 柏	瀬 戸
定 員	25名（契約者数36名） ・新規契約者3名 ・契約終了者5名（入所3名、介護保険移行1名、契約後の利用無し1名）	20名（契約者数29名） ・新規契約者4名 ・契約終了者1名（死亡）
障害支援区分	区分6（33名）、区分5（1名） 区分4（1名）、区分3（1名） 平均支援区分 5.9	区分6（27名）、区分5（1名） 区分3（1名） 平均支援区分 5.9
年 齢	20代（24名）30代（6名）40代（3名）50代（1名）60代（2名） 平均年齢 26.4歳	10代（2名）20代（18名） 30代（9名） 平均年齢 22.4歳
住 所 地	岡山市（31名）、赤磐市（5名）	岡山市（19名）、赤磐市（5名） 瀬戸内市（3名）、備前市（2名）
職員配置等	管理者（1名）、サービス管理責任者（1名） サービス管理副責任者（1名） 生活支援員（常勤、非常勤9名） 看護師（常勤、非常勤2名） 作業療法士（非常勤2名） 事務職員（非常勤1名）、 嘱託医（非常勤1名）家政員（非常勤1名）	管理者、サービス管理者（兼務1名） 副管理者（非常勤1名） 生活支援員（常勤、非常勤9名） 看護師（常勤、非常勤2名） 作業療法士（非常勤1名） 事務職員（常勤1名）嘱託医（非常勤1名） 配膳等職員（非常勤2名）

2. 実施事業の内容

1) 健康管理・医療面

- ◇ 医療面は看護師4名を中心に臨んでいる。また、年々増えている医療ケアの必要な方々への対応として、支援職員も注入や吸引が出来得るべく研修に取り組んでいる。

- ◇ 日々のバイタルチェックを行い、体調が気になる場合は継続計測し、冷やす（温める）、別室での静養やご家族に連絡する等、その時々で最良と思われる対処を行う様努めてきた。
 - ◇ しかしながら原因が掴めない事故（手の骨にヒビが入った）が発生した為、様々な面からの検証をした。未だに原因ははっきりしていないが、色々な形、場面で啓発を行っている。
 - ◇ 検査入院も含め様々な要因で入院される方が何名か居られた。年齢の重ねと共に身体に係る負担も大きくなったり、気候変動に左右されることが顕著になるなど、健康状態に影響される日々が多くなってきている。微かな変化に気付ける感性を磨いていきたいが、まだ思い込みや経験に頼りがちな傾向は見られる。
 - ◇ 心身共に健康であれば日々の活動やふれあいも楽しめるが、痛みがあればそれも厳しい。一人ひとりの方が、心身共に安楽に過ごせるよう今後もしっかり努力していきたい。
- 2) 日中生活、日中活動支援
- ◇ 日中活動は主にレクリエーションやスポーツ、音楽、感覚・機能訓練、創作や調理活動、園芸等に分かれ、担当者を中心に取り組んできた。また、個々の希望や要望に沿った個別、あるいは少人数での活動も取り入れている。
 - ◇ 昼食に要す時間が多くなった為、午後の活動時間が少ない状況は変わらず。活動内容や動き、環境等の工夫を行ってはいるものの、利用者の方にとって興味を引かれるもの、楽しめるものとなっているのだろうか・・・と会議でも議題に上がる。様々な要因があり一朝一夕での打破は難しいが、新たな提案や話し合いも行っていきたいと考える。
- 3) 入浴
- ◇ 入浴ニーズは高く、新たな利用に際しても必ず問われることである。家庭状況やご本人の状態等によりできるだけ臨機応変な対応をさせて頂いているものの、浴槽も時間にも限りがあり、ご要望には遥かに届いていない実状で毎年の課題となっている。
- 4) 送迎
- ◇ 車両数や支援者数に限度はあるものの、可能な限りの送迎を行っている。年度途中でもルートや時間の見直し等を行い、片道のみからでもご要望にお応えしている。瀬戸は4市に亘る為、送迎要員を補充し対応している。
 - ◇ 送迎中にバックしてきた車にぶつけられ医療機関に罹ったが、怪我も無く済んでいる。また、年間通して接触や自損等での車両損傷はあるが、幸い大きな事故には繋がっていない。
 - ◇ 車両担当者を決め、日頃からメンテナンスを行うようにしている。ただ、車両清掃等になかなか時間を割くことが難しい現状。
- 5) 行事等
- 玉柏、瀬戸共に昨年度は“地域”を意識した行事に取り組んだ。これまでには無い取り組みであったが、ご家族始め身近な方々のご協力を得て多くの地域の方々、グループ等において頂くことができた。今後も様々なアプローチで地域との繋がりを強めていきたいと考える。
- また、新成人を祝う会やクリスマス、運動会等、季節にあった行事に取り組んでいるが、パターン化しがちな傾向があり、なずなならではの行事といった意識で個々職員が模索できることを考えている。
- 6) 土曜開所
- 毎月第2、第4土曜日を開所日としており（6月は第2のみ）、利用希望される方はほぼ固定化している。延べ381名（1日平均16.5名）の方に利用頂いている。
- 原則日数や日中一時支援との関係で利用日に差ができてやすいので、2ヶ月ごとにご希望を伺うようにしている。

3. ボランティアの方・実習生等の受け入れ

- ◇ ボランティア
新規ボランティアの開拓が進まなかった。しかし、地域交流を目的とした催し等では、ご家族始め

たくさんの方のご協力を頂いている。こうした身近な方々を協力者として捉え、声かけや働きかけを行っていくことも必要である。

◇ 実習生の受け入れ

支援学校の実習生については今年度の利用には繋がらなかったものの、今後を踏まえてしっかりと受け入れを行っていきたい。介護等体験実習については、玉柏には理大生と清心女子大生、瀬戸にはIPUの実習生があった。利用者の方にとっても、楽しみともなっていて居られたように思う。今後も受け入れを継続していく。

4. 事故、ヒヤリ・ハット及び苦情やご意見等について

◇ 医療機関に罹り、市に事故報告したもの～4件

ご本人の動きからファイルの先が目に当たり眼科通院された方1名、送迎中にバックした車にぶつけられ、2名の方が念の為の通院をしている。また前述もしたが、原因不明のケガが起きている。大まかな見立てはできるが、確たる原因が掴めずにおり、今後同様の過ちを起ささないよう予防に努めていく。

◇ ヒヤリ・ハット件数～125件（車両損傷14件、胸・腰ベルト装着忘れ13件、外傷9件

転倒・転落とその恐れ13件、利用者さん同士の接触等7件、個人物品を間違えて使用6件、車両ドア閉め不十分とリフト固定緩み5件、服薬・塗り薬関係5件、酸素ボンベ開け忘れ3件他、多くは無いが職員の連携ミスや意思確認の曖昧さ等）全員で回覧、周知を図っている。

◇ 苦情～1件

一般の方から電話あり。なぜなの車が法定速度で走っていたところ、「遅い」ということで苛立たれたよう。謝罪したが、改めて名を冠して走行していること、外からの目をもっと意識していかなければならないと痛感。

【日中一時支援】

契約児童は10名で、1名は家庭事情もあり今年度は利用が無かった。春、夏、冬の長期休暇、学校の振替休日での利用を主として1日平均2名の方を受け入れている。今年度より訪問教育の児童の方の利用が始まっている。知的障がいの方の見学者が数名居られたが利用までには至らなかった。また、毎週の定期利用の方は学校への迎えを行っているものの、送迎体制はまだまだ整っていない。日課は瀬戸生活介護利用の方とほぼ同じ流れとしているが、別室にて受け入れている。生活介護利用者の方の日中一時支援事業への切り替えも徐々に行なっている。ご本人の地域生活の一端を担える事業としてはまだ弱いので、今後、体制固めをしっかりとしつつ臨みたい。

平成 29 年度【瀬戸障がい者相談支援事業所】事業報告

平成 29 年度は併設のデイセンターなずな瀬戸の単独事業化や相談支援専門員の変更等で組織的には少し慌ただしい一年であった。私ども瀬戸障がい者相談支援事業所がお受けしている計画相談件数は児童含め 3 月時点で 145 件となっており昨年より 25 件ほど増えている。一方、生活相談や福祉サービス探し、年金や各種手当申請、関係機関とのやり取り等、基本相談も徐々に増えつつあり、必要な手続き、相談業務に追われる日々が続いている。不安定な家庭環境の下にあるご本人への生活支援、施設入所やグループホーム探し、単身でアパーと暮らしを始めた方への衣食住に渡るサポート等、多くの関わりを求められるケースがあり、その点でも時間や手不足に明け暮れた一年であった。

以下、事業項目ごとに平成 29 年度の実績をまとめ報告とする。

1) 平成 29 年度瀬戸障がい者相談支援事業所の体制

管理者 1 名（デイセンターなずな管理者兼務～1 月からのなずな事業変更に伴い、1 月から 3 月までは相談支援専門員が兼務）、相談支援専門員常勤 3 名（12 月までは内兼務 1 名）1 月からは相談支援専門員 2 名（内兼務 1 名）非常勤相談員 1 名（10 月以降はデイセンターなずな副管理者と兼務）、事務員 1 名（兼務）

2) 主な具体的業務

サービス利用計画の作成、モニタリング、その他一般的な相談及び支援にかかる相談業務、それに伴う関連機関や事業所訪問及び調整会議やケア会議への出席。各機関との連絡調整、移行支援会議。なお、年度末には地域定着支援が 1 件スタート。研修や勉強会への出席等。認定調査員としての業務もあり。

3) 地域との関わりにおける具体的な動き

- ・瀬戸つながり隊の一員としての取り組み～瀬戸地区社協や公民館、瀬戸町内の障害福祉サービス事業所で平成 27 年度末に発足、瀬戸地域が人に優しい街となるよう地域啓発に向けた活動等。原則、毎月の定例会、第 2 回瀬戸つながり隊広場の開催、ワークセンター瀬戸主催祭りに参加。
- ・デイセンターなずなと共催で井上忠絵画展、デイセンターなずな写真展開催。

4) 各種研修会への参加（※10 月以降）

- ・東部地域部会計画相談支援勉強会（毎月 第 3 木曜日）
- ・10 月 10 日 赤磐市相談支援事業所連絡会
- ・11 月 21 日 赤磐市相談支援事業所連絡会
- ・12 月 8 日 精神障害者就労支援研修会
- ・2 月 26 日 療育研修（赤磐市主催）
- ・瀬戸つながり隊 連絡会（毎月 第 4 月曜日）

5) 相談利用者状況

福祉事務所別計画相談契約者数（平成 30 年 3 月 1 日現在、総数 145 人～者 106 人、児 39 人）

市別	岡山市							赤磐市	倉敷市	備前市	瀬戸内市	和気町
	東区	瀬戸支所	中区	南区	北区	建部御津	健康づくり課					
者	29	11	18	3	4	4	11	23	1	2	1	0
児童	21	7	5	1	0	0	0	1	0	1	0	0

※今年度新規契約 24 人 契約終了 3 人

相談形態別人数（同上、総数 169 人）

基本相談	障害児相談	計画相談	地域移行	地域定着
23	39	106	0	1

計画相談（児童含む）障害別の状況（同上） ※難病と高次脳については再掲

状況	身体	知的	精神	重心	身・知	身・精	知・精	発達	難病	高次脳
者	14	46	8	22	10	8	1	0	6	4
児童	2	8	0	1	3	0	0	25	0	0

基本相談の内容別人数（平成30年3月現在、継続中のもの）相談内容別人数⇒※再掲あり

福祉サービスの利用 （計画相談契約者除く）	就職相談、 アフターケア等	基礎年金手続	成年後見	補装具日常生活用具等
9人	4人	4人	1人	2人
各種手当の申請	手帳の取得等	退院後の生活相談	引きこもり等	生活相談他
3人	1人	5人	5人	6人

計画及びモニタリングによる請求件数

内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総数
モニタリング	14	18	3	19	21	17	12	6	17	13	6	14	160
計画	10	5	5	7	9	8	10	9	13	10	9	19	114

6) 瀬戸における相談支援業務の今後

この1年、児童の計画相談に入るケースが急に増えてきた。計画相談の依頼にさして最近はお断りしたり他事業所をお願いするといったことも出てきている。この年度後半に始めた地域定着支援を始め、ご家庭での介護が困難となったケースへの対応、利用者の入退院に伴う急を要する関わり等、時間や頻繁な支援、手間取るケースが増えたことで時間に余裕がないことにもよる。また、基本相談としてお受けしながら遅々として進められていないケースが積み残されており、申し訳なく思っている。

一方、地域の相談支援事業者間や福祉サービス事業所との信頼や繋がりも徐々に強くなってきているように思われる。おかげで情報の共有や広がりも見えてきた。

今後も一昨年から進めてきた瀬戸繋がり隊の活動を始め、地域づくりを推進すべく努力をしていく必要がある。そのことが障害当事者の皆さんの過ごし易い地域生活に繋がるものと確信している。デイセンターなど一体となって地域社会の啓発活動に努めていきたい。

平成 29 年度【ワークショップちどり】事業報告

平成 29 年度は 20 名でスタートした。11 月に新たな利用者の方を 1 名、2 月には利用契約終了の方を 1 名と大きな変化はみられず、平均して 8 割といった利用状況は昨年とほとんど変わらずである。働く事業所として就労を通しての達成感を感じて頂き、工賃アップを取組むことにより工賃を上げる計画を引き続き考えている。高齢により介護保険と併用される方への支援、健康面への配慮に努めた。更に今後ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、穏やかな気持ちで過ごして頂けるよう寄り添いの支援に努めていきたい。また、ご家族との関わり、地域との繋がりは少しずつではあるが前に進んだ一年であった。

1、定員及び利用者状況

- ・定員：20 名（変更なし）
- ・契約者数：20 名 4 月～3 月平均利用率 81%

2、職員配置

- ・管理者・サビ管 1 名（兼務） 目標工賃達成指導員 1 名 生活支援員 3 名
- 職業指導員 1 名（パート） 事務員 1 名（兼務）

3、作業及び活動の取組み

〈作業〉

・紙製品

お客様として知り合ったデザイナーの方からの注文により従来に無かった新しい商品作りが出来た。しかし、商品価格の見直しは課題として残った。優先調達法登録より岡山県から大量の受注を頂きより売上げに繋がった。課題としてご利用者の校正作業・お花付け作業の後継者が育っていない現状が続いている。

・下請け〈ドックフード等〉

業者と月 1 度ミーティングを行い作業の進捗状況・課題点を話し合い品質の高い商品生産を目指して進めてきた。包材ロスも年々減り業者からの信頼に繋がっている。一方、作業の種類も増え手間が掛かる作業が多忙だった為、作業単価の見直しを行ったが、大幅な売上げ増には繋がらなかった。その方に合った自助具を作成したことで、ご利用者の出来る作業の幅が広がっている。また、優先調達法登録により定期的に岡山県・岡山市からの受注を頂き収入増となった。

・施設外就労

見通しを持って作業を進める為、取引先との打合せを密に取りスムーズな流れを作り、生産量増に繋がった。その事により余裕を持って納品することが出来、安定した収入となった。工場の従業員の方々からも温かく受け入れて頂き、事業所以外で働ける喜びを得られている。お揃いの作業 T シャツを着用し、生き生きと作業へ向かわれる姿がふえ、やりがいを持ち作業参加されるご利用者が増えた。また、作業場についても整理整頓し安全性に努め、季節に応じた健康管理で進めた。

・委託販売

乾燥こんにやくは出荷元の生産が間に合わず入荷待ちの時期もあったが福祉の店「元気の輪」の注文、バザーなどの売上げが伸び、昨年度より収入増となった。また、店内にお客様が入られる際に商品を見易く整えたため、展示している備前焼や他の商品の売上げも伸びている。

各作業の平成 29 年度収入状況について以下の通り（%は予算対比）

・紙製品作業	(収入 1,148,248 円)	103%	
・ドックフード	(収入 1,389,314 円)	103%	
・施設外就労	(収入 1,494,222 円)	100%	
・委託販売	(収入 711,989 円)	104%	
・その他	(収入 78,430 円)	101%	合計 4,822,203 円

利用者工賃：平均工賃支給額 時間給：180 円 月平均額：12,878 円（総支給額 2,987,670 円）

工賃向上 3ヶ年計画 29 年度目標平均月額、時間給 178 円を上回る 180 円と結果を出せた。

〈活動〉

- ・第 3 土曜日の開所日は担当者を中心にご利用者の意見を聞き、季節に合った行き先・多くのご利用者が参加出来る内容を検討し、日頃の疲れを癒せる行事の実施に努めた。10 月の泊を伴う社会体験では、利用者ミーティングを活用し、ご利用者主体で行き先・プランを検討し実施した。リビング配布作業、月 1 度の地域清掃時などに地域の方から声を掛けてくださることが増えた。また、地域の高齢者施設からクリスマス会に招待して頂き交流を楽しむことが出来、地域交流は一步前進できた年であった。

4、苦情解決

〈ヒヤリハット〉 ・怪我 (1 件) その他 (1 件)

〈事故〉 ・事故 (1 件) 施設外就労に向かう途中、緩やかなカーブを曲がり切れず縁石に乗り上げ左タイヤ損傷、受診し異常なし。岡山市・笠岡市に報告

5、今後の課題

- ・新たな工賃向上計画を作成しそれに向け取り組み、更なる工賃アップを目指したいと考えている。
- ・平均利用率が 8 割である為、契約者数の増員が出来るよう支援学校と連携を図りたいと考える。
- ・地域活動を更に活発に行い、地域に密着した事業所作りに取り組んでいきたい。